

定例記者懇談会資料

2年連続の保育所待機児童ゼロ達成

1 概要

- ・島田市の待機児童数（国定義）は、昨年度に引き続き0人となった。
- ・令和3年度中には、企業主導型保育施設（定員27名、地域枠13名）の開所などがあった。
- ・保育所等にはできる限りの受け入れを要請し、入園申し込みに対して複数回の選考を行い個別に対応するなど、きめ細やかな入園調整に努め、待機児童をゼロとすることができた。
- ・少子化等の影響により保育所等の申込者数は全体としてはやや減少傾向であるが、中心市街地は依然として高く推移している。

2 待機児童の状況等

(1) 保育所等の待機児童数の状況

（単位：人）

区分	R3. 4. 1(a)	R4. 4. 1(b)（暫定）	増減(b-a)
待機児童数	0	0	0

(2) 申込児童数の状況（4月入園希望児童。継続児童を含む）

（単位：人）

区分	R3. 4. 1(a)	R4. 4. 1(b)（暫定）	増減(b-a)
申込児童数	2,116	2,099	▲17

(3) 保育所等の施設数等の状況

（単位：箇所、人）

区分	R3. 4. 1(a)	R4. 4. 1(b)	増減(b-a)
保育所等数	33	34	1
定員	2,113	2,130	+17

(4) 今後の課題

依然として年度途中の新規申し込みに対して待機児童が発生している。この要因として、入園希望月直前に申込があった場合に、保育士の不足もあり、施設が急な申込に対して臨時の保育士を確保することが困難になっていることが挙げられる。対策として、中心市街地における老朽化した保育所の施設整備による定員増を進めるとともに、保育士確保のための政策の充実や早めの入所申込についての広報の強化に取り組んでいく。